企業から見たインターンシップ

シンプレクス

そもそも、インターンシップに参加する目的は何だろうか。
金融機関の戦略的ITパートナーとして高度なITソリューションを提供しているシンプレクス株式会社は、
「インターンシップとは、ミスマッチのない就職をするためのヒントを得る場」だと考えている。
仕事の本質や自らの適性が1日で分かるという、シンプレクスのインターンシップについて、
ヒューマン・リソーシーズグループ マネージャー　山本 佳史氏に話を聞いた。

「コンサルティング」と「IT」を体験できる、開かれたインターンシップ

最先端の金融工学とIT技術を兼ね備えたエキスパート集団、シンプレクス株式会社。ディーリングに代表される金融機関の戦略的収益業務（フロント業務）に特化し、メガバンク、総合証券、ネット証券など日本を代表する金融機関に対してコンサルティングから開発、保守・運用まで、高難度のシステムソリューションを提供している。金融フロンティア領域シェアNo.1ならではの圧倒的な金融業務知識と、システムの全工程を一気通貫で行うコンサルティングスタイルが同社の特徴だ。

そのシンプレクスが実施するインターンシップは、1日で「コンサルティング」と「IT」両方を体験できる。全学部・全学科対象で、インターンシップ用の事前選考は一切なし。ITを専攻している学生に限らず、プログラミング初心者でも参加が可能だ。

「自分にマッチした仕事を見つける第一歩は、まずは自分の適性を知ることです。このプログラムは、リアルな就業体験というよりも、『コンサルティング』や『IT』の仕事に求められる素養を理解していただけるような内容にしています」山本氏は、インターンシップの狙いについてこう話す。

仕事の「本質」を理解することで、適性が見えてくる

プログラムは、午前・午後の2本立てになっている。午前中はグループワークで「コンサルタントとしてのプロジェクト推進体験」、午後は「システム開発体験」といった流れで「学生側が手を動かし体験すること」を重視している。一般的にコンサルティング会社のグループワークでは、ケーススタディや新規事業立案といった内容をイメージする人が多いかもしれないが、このインターンシップで取り組むのは「ゲーム形式の課題」だ。単純なゲームではあるが、幾つかの制約を設けることで難易度を高く設計しているという。ゴールを設定し、そこに至るまでに都度修正や最適化を行い、時間内に成果物を完成させる。そんなコンサルティング業務の本質が体験できる内容となっている。

「理系学生は専攻内容にかかわらず、仮説→実行→検証といった思考プロセスに慣れていると思います。コンサルティングの仕事も、その本質は同じです。そこにぜひ気付いてほしいですね」

午後は個人ワークで、Javaによるシステム開発に取り組む。プログラミング経験がない学生であっても基礎から丁寧にレクチャーを行うので、最終的には一つのシステムを完成させることができるという。

「システムを動かすためには、物事を論理的に分解して精緻にコードを書くことが求められます。コンサルティング業務と同様に、理系の思考プロセスを活かしやすい領域のため、プログラミング未経験の方も気後れせず、挑戦してほしいですね」山本氏がそう話すように、仮説→実行→検証というプロセスを踏むのは、研究活動もITも同じ。それにITは、研究活動よりも早く成果が見えるという面白さがある。このように、システム開発の仕組みが分かることで、視野が広がり、今後の就職活動の選択肢が広がるかもしれない。

また、プログラミング経験者には、ぜひ力試しの場として活用してほしいという。「早く課題をクリアできた方には、応用問題もご用意しています。『自分にどの程

本格的な就活スタート前に自分の適性を見出す、1dayプログラム

■理系学生へのメッセージ

理系学生は徹底的に研究に打ち込み、研究ファーストの姿勢を貫くべきだと思います。しかし研究活動と就活のピークは重なりがちです。その時に「就職活動に時間を取られて研究が手抜きになる」のは本末転倒。こうした事態を避けるためにも、インターンシップを活用し就職活動を効率的に進めていくことが重要です。時間に余裕がある時期、かつ企業が選考モードに入っていない状態で、就活や業界について多くの情報を得ることができます。ぜひこの機会を活用して、充実した就活を行ってください。

シンプレクス株式会社
ヒューマン・リソーシーズグループ マネージャー
山本佳史（やまもと・けいし）

度の実力・アドバンテージがあるのかを試したい』と、参加する方も多いですよ」プログラミング中は、人事が巡回して一人ひとりの状況に合わせたアドバイスを行うなど、きめ細やかなサポートがあるのも心強い。

今後のキャリア形成について真剣に考える1日にしてほしい

シンプレクスのインターンシップは、会社説明に重きを置かず、あくまでこれから就職活動を行う学生の目線に立って丁寧に組み立てられている。

「特に理系の学生は、専攻分野に近い領域に限定して就職活動を行う傾向があります。しかし、それは同時に自身のキャリアの選択肢を狭めてしまっているとも言えます。仕事をする上で具体的な専門性も大切ですが、理系ならではのものの考え方や頭の使い方を活かせる仕事を幅広く検討することも重要です」

向き不向きが分かれば、その後の就職活動を効率的に進められるだろう。事前選考がないため、対策に時間を取られることもない。「コンサルティング」「IT」「課題解決」といったキーワードに少しでも興味がある方、自分の素頭を使いどこまで成果を残せるか挑戦してみたい方、是非インターンシップに足を運んでみてほしい。

気軽に参加できるとはいえ、参加するからには本気で取り組んでほしいと山本氏は話す。「『とりあえず2～3社インターンシップに参加しておけばいいか』というスタンスでは、無駄な時間を過ごすことになります。たった1日ですが、取り組み方次第で、自分にマッチした仕事に就くための重要なヒントが得られるかもしれません。ですからこの1日は自身の将来のためにも集中して真剣に取り組んでほしいですね」